

将棋は頭脳スポーツ 頭の体操で元気に

近代将棋の父といわれる、関根金次郎名人の出身地である野田市では、将棋の普及のため、名人戦や竜王戦、女流名人戦などのタイトル戦の誘致を行い、実施してきました。また、将棋人口を増やすための大会や教室も開催しています。近い将来に再び野田市から将棋名人が生まれるかもしれません。

毎年女流棋士のタイトル戦が開催されたり、将棋大会が開催されたりと、将棋の普及に力を入れています。この野田市と将棋の強い結び付きのきっかけは、約150年前にさかのぼります。

慶応4(1868)年、東葛飾郡東宝珠花村(現在の野田市東宝珠花)に関根金次郎は生まれました。53歳の時に十三世名人となった金次郎は、



阪田三吉と対局する関根金次郎(左)

世襲で終身制だった当時の名人制度では、将棋界が發展しないとの思いから、340年続いた制

度から今の選手権による実力名人制に移行させ、日本将棋連盟の前身である将棋大成会を興しました。

そのため金次郎は、「近代将棋の父」と現在に語り継がれています。市内にある関根金次郎支部は、人名を冠した唯一の支部です。

金次郎ゆかりの地として市は、関根金次郎支部の協力を得て、市制施行60周年の平成22年には名人戦を、合併10周年の平成25年には竜王戦を招致して大いに将棋熱を盛り上げました。

関根名人記念館や対局室

「関根名人記念館」は、旧野田市と旧関宿町の合併重点事業の一つとして平成16年4月1日、いち

のホール5階に開館しました。

展示室では、金次郎愛用の将棋盤や駒などのゆかりの品に加え、名人戦や竜王戦で使用された品、指南書から将棋を題材とした漫画まで幅広い書籍を展示しています。隣の対局室では、約20面の将棋盤を用意しています。

■対局室



■記念館 (写真は特別展中)



記念館は、火曜日と年末年始以外は開館しており、対局室では、将棋愛好家の方が自分の戦法を持ち寄り、対局を通じて互いに切磋琢磨しています。将棋を指したいが、コンピューター対戦は苦手という人は、ぜひ利用してください。

毎年開催の女流名人戦

野田で9回目の開催となる平成29年の女流名人戦では、里見香奈女流名人に上田初美女流三段が挑みました。5番勝負第3局である野田では、2連敗と追い込まれて

いた里見女流名人が待望の1勝を挙げました。その後、里見女流名人は2連勝して防衛し、自身の連覇記録を8連覇に伸ばしました。



併せて開催される大盤解説会には、現役棋士による解説が聞けるほか、対局を直に5分程度観戦できる時間もあることから、毎年市内外から多くの申し込みがあります。

野田から名人を目指して

県立関宿城博物館で開催している「関宿城将棋大会」では、大人の部と子ども部に分かれ、階級別のトーナメント制で熱戦が繰り広げられています。



大会に参加した子どもたちの中には、プロ棋士を目指して奨励会に入会した子もいます。野田から再びプロ棋士、そして名人が誕生するのかもしれないかもしれません。